ころか、顔を向けることさえできない人が多数います。このことは、社会的参加の対象を自分で選ぶことができないということです。そのため、介護者は、その人が社会的参加の対象に選びたいものを先取りして、居場所を変え、姿勢を変え、さらに顔の向きを変えねばなりません。このために費やす介護者の能力は有限なので、この人は初めて見る人だが、その人が関心を持ち、心を通わせるに違いないと高い精度で予想しなければなりません。このように、その人の内面を正しく理解し、「活動」と「社会的参加」が高まるように努めて参ります。

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の３項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1−C，B2，D2−U，B5−B，C4−D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

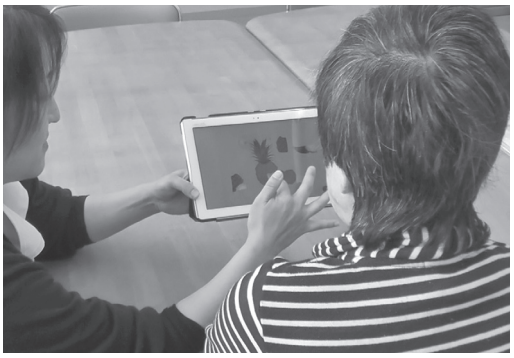
〈移動機能〉

＜特記事項＞
C：有意な眼瞼運動なし
B：盲
D：難聴
U：両上肢機能全廃
TLS：完全閉じ込め状態

だいちの日常活動紹介

中田　亮

Aさん（横地分類A6）は本を開くと背筋を伸ばして本に視線を向け覗き込むように絵を見ます。白地に鮮やかな色づかいの絵が描かれている『そらいろのたね』という本の語りかけでは赤や黄色の鮮やかな色彩の花の絵をよく見ていました。語りかけも聞いている様子で「やあ！」「おや？」といった登場人物の台詞のところで顔を上げたり職員の顔を見たりしていました。ページをめくる毎に描かれている絵が段々と大きくなっていくと、じっと動きを止めて真剣な表情で見ています。見ているものが段々と大きくなっている変化におもしろさを感じているようで意識を集中させていました。動物の絵が増えてページ全体に広がっていくとそれぞれの動物の絵を見ていました。動物が増え、ページ全体に広がっていくのを目で追って見ています。最後のページで絵が無くなると、それまでとの違いを感じて目を大きくしていました。本ではページをめくることで絵が増えたり減ったりすること、色や形が変化することに注目していました。色や形が集まり出来上がっていく変化が楽しめるのではないかと考え、タブレットのアプリの「くだものパズル」を職員がやって見せました。４～８個ほどのパズルのピースが画面全体に広がり、中央に集めてパズルを完成させていくものです。始めにピースが広がると、画面全体を見るように視線を左右に動かします。職員がパズルのピースを画面上でタッチして中央部分に動かしていくとじっと追って見ています。いくつかのピースが集まり、形が出来始めると動きを止めて瞬きもせずに中央部分に顔を近づけてグッと集中して、ピースが集まって形になっていく変化に注目していました。そして、パズルが完成し果物が現れたり、画面上部から色々な果物が落ちてくると目を大きくさせて表情が緩んでいました。



Bさん（横地分類B6）はリビングで職員が歌っているといつの間にか近くに来て座ります。そして床を手で軽く叩き、そっとリズムを取っています。活動ではゆったりとした、のびやかな曲調の歌を職員が歌いかけました。『ハナミズキ』を歌いかけると職員の顔をじっと見つめて聞いています。時々小指をトントンと動かしてリズムを取っていたり目を閉じて頬に手を当ててじっと聞いていました。サビに入って声が高くなったり声を伸ばすところでは職員の顔を見つめ聞いていました。